

COIL プログラムから学ぶ異文化交流の大切さ

1) COIL 授業・プログラムについて

私は大学入学時から異文化交流に興味があり、数多くの COIL のプログラムや授業に参加させていただきました。コロナ禍で留学が難しい中、オンラインで海外の大学の学生と交流できることが魅力的でした。授業では、オンライン上で海外の学生と議論を交わす時間が取られており、ディスカッションを通してさまざまな視点から物事に触れることができました。非対面でも世界中どこでもつながり意見交換ができるという新たな可能性やその重要性を、COIL 授業・プログラムを通して実感しました。

【これまでに参加した授業・プログラム】

- ・ インストラクショナルデザインと異文化間能力
- ・ 震災・洪水の被災地を学ぶ～福島でのオンラインフィールドワーク～
- ・ Pacific War Revisited
- ・ Language Exchange, Dream Tour など（授業外交流プログラム）

2) 学生ワークショップについて

日米関係に関するプレゼンテーションを行うというプログラムのもと、用意した発表を行い UCR の学生と対面で議論を交わしました。私は核の「平和利用」についての議論を、日本のポップカルチャーと関連付けながら発表をしました。日本のアニメや漫画、映画などの作品に隠された核との関わりは、日本人でも気づきづらい点であり、UCR の学生は非常に驚いた様子で発表を聞いていました。核の平和利用・軍事利用についての議論以前に、武器や武力のない世界が可能であるかどうか



という議論にまで発展しました。発表の後には日米の文化的違いや日本の言語についての疑問などの交流も深められました。これまでの画面上での交流では得られなかったものも多く、対面での議論や交流の重要性に改めて気付かされました。



写真：学生ワークショップの様子 ※撮影時のみマスクを外しています。

3) TP ワークショップ参加について

国際日本学を専門とする学者の視点から、日本社会や歴史、文学作品などに含まれる問題に触れました。普段の学部の勉強では触れたこともないような視点で問題が捉えられており、非常に新鮮でした。自分の学生ワークショップのテーマにもあげた「核問題」に関するテーマや国際日本学部開講の授業で勉強している「コンテンツツーリズム」についての発表は自分にとってとても興味深いものでした。研究者の発表を通して、社会問題の捉えかたから考察までのプロセスなど、これまでとは異なるアプローチを体感することができ、一年後のゼミ研究や卒業論文執筆の際などに役立てられそうだと感じました。



写真：UCR キャンパス内のモニュメント
広大なキャンパスに圧倒されました。

4) その他印象的だったことなど



私は以前カリフォルニアを訪れたことがあったのですが、今回の訪問先リバーサイドは初めて訪れた場所で、地域特有の歴史や背景に関する学びも多く得られました。昔はオレンジ畑が広がっていたことやその名残で街中に柑橘類の植物が見られたことなどを教えてもらい、街を歩いているだけでも多くの発見がありました。Orange という名前の通り（写真）もあり、まさに地域の歴史が反映されていると感じました。

また、カリフォルニアには日本人にとって忘れてはならない、アジア系人種に対する差別が行われた歴史があることも肌で感じられました。当時カリフォルニアに在住していた日本人の住民権剥奪に対して活動を行った原田重吉さんの家とされる、歴史的建造物 Harada House も見ることができました。国際日本学を考える際、カリフォル

ニアと日本の関係は切っても切り離せないものであり、歴史的な問題もあることを忘れてはならないと強く感じさせられました。これまでとは違った視点からカリフォルニアを体感することができ、非常に有意義な時間を過ごすことができたと思います。

5) 全体の総括

COIL 授業ではオンライン上で米国大学の学生と繋がり議論を交わすことができました。しかし今回の TP ワークショップではオンライン交流の幅を超えた議論や交流を発展させることができ、対面交流の重要性を実感することができました。学術的な議論のみならず、より「交流」を深められたことや、街の雰囲気に触れながら歴史などを学ぶことができた点も対面交流の利点であると感じました。今回の TP ワークショップ・学生ワークショップ全体を通して学んだ、広い視野と異なる視点を持って物事に触れることを、今後の大学での学びや研究に活かしていきたいと思っています。